

行財政改革推進委員会は3月20日第39回委員会で最終(第六次)答申を町長に手交しました。第六次総合計画後期基本計画の抜本的な見直しや、行財政改革プランの策定、基金の積増し等、計画的に行財政改革を進めることが求められています。概要は次のとおりです。

全文は町ホームページをご覧ください <https://www.ikedamachi.net/0000002485.html>



## 行財政改革に関する最終(第六次)答申の概要

### 諮問内容

#### 4. 財政運営の改善に関すること

- ①収入増策…収入増策の考案
- ②中長期的財政シミュレーションの作成

#### 5. 行財政改革の計画策定・評価検証・見直しに関すること

- ①行財政改革プラン(仮称)…今後の指針として

### 答申前文

諮問事項4、5とともに、これまでの答申も合わせて総括として、最終答申をとりまとめた。町長・職員が自らの問題として捉えて、町議会議員、さらには町民と一丸となって、確実に実施されるよう要望する。

### 答申本文

#### I. 財政健全化のため特に求められる視点

① 第6次総合計画(後期基本計画)の改定に当たっては、まちづくりの将来像を練り上げ、優先順位を定めて実行に移すこと。

② 緊急対応期間の令和8年度までに経常的経費を削減し、財政の健全化を図り、計画的に各種基金を積み立てること。

③ 上述した2点を実現するため町長の決断とリーダーシップのもと、行財政改革プランを策定、実施、評価・検証、見直すこと。

#### II. 財政運営に当たっての基本的考え方

##### (1) 財政に関する現状分析と危機意識の共有

財政は、改善しているように見えるが、あくまで一時的であり、依然として財政が硬直化して危機的な状況にあるとの認識を改めて共有すること。

早期に経常収支比率80%以下を目指すこと。

##### (2) 答申の実現・検証、行財政改革プラン策定

令和5年度に新たに行財政改革推進委員会を立

ち上げ、行財政改革の進捗状況について評価・検証し、答申を参考に、行財政改革プラン及びその道筋を示したロードマップを策定すること。

##### (3) 総合計画の抜本的な見直し

第6次総合計画の後期基本計画の改定に当たっては、町民合意で練り上げ、本委員会の答申を十分に加味すること。また、その財源等を示した財政計画書を作成すること。その際、年次ごとの財政推計を行う中長期的財政シミュレーションを策定の上、毎年度見直しを行い、公表すること。

##### (4) 大型公共事業のあり方とそのための新規起債の抑制

今後の大型事業計画については、その必要性・実現可能性を十分に吟味の上、実施し、財源捻出のために安易に新規に起債することは厳に慎むこと。特に、会染保育園問題、社口原農地問題、会染西部ほ場整備に係る非農用地問題などの大型公共事業は多額の資金を必要とするので、慎重な検討が必要である。

##### (5) 基金の計画的な積立て

計画的に公共施設等整備基金を積み増すこと。

地方債現在高の返済財源を確保し、繰り上げ償還を行うため、減債基金を積み増すこと。

#### III. 増収策

##### (1) ふるさと納税による増収

情報発信の充実、魅力ある特産品の開発など

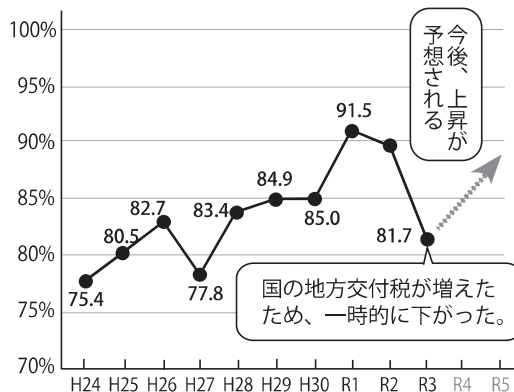
##### (2) 未活用の普通財産の売却

交流センター東側スペース、旧北保育園など

##### (3) 魅力ある町づくりの重要性

少子化対策や移住定住対策などの充実が重要

経常収支比率の上昇



これまでのニュースでもお伝えした通り、池田町の経常収支比率は、令和元年度末で91・5%まで上昇し、財政が著しく硬直化しました。これを解決するために、委員会は数度の答申で、人件費、補助

## 1 財政の弾力性回復と、町民のための財源づくりが急務

### ① 経常収支比率を80%以下に

費などの経常経費の削減を提案し、できるだけ早く経常収支比率80%以下を目指して取組みを強めるよう町に求めてきました。財政の弾力性を回復すれば、子育て支援、農業の後継者づくり、福祉の充実、産業の育成など、池田町独自の事業が可能になり、将来に備えて貯金も増やせるようになるのです。

池田町は財政健全化の入口に立っているにすぎません。今号では、当委員会がなぜ裏面に示す最終答申を町長に行ったのかをお伝えしつつ、現在の池田町の財政状況を踏まえて、財政危機解決の方向を町民の皆さまとご一緒に考えてみたいと思います。約2年間の審議を続けてきた私たち行革委員の思いを汲んで頂ければ幸いです。

### ② 大型事業を抑え借金残高の縮小を

池田町は最近の5年間で、投資的事業を集中的に行い多額の借金をしたために、これから数年間、毎年6億円を超える返済を続けなければなりません。これ以上財政を悪化させないためには、新たな借金を極力抑えることです。また、繰上償還などで借金の残高を減らすことも忘れてはなりません。

### ③ 将来に備えた貯金を計画的に

一時心配された貯金（基金）の枯渇は避けられたものの、その総額は平成28年度の水準に何とか回復しただけ。将来の公共施設の改修や借金返済のための蓄えとしては全く足りません。財政健全化のためには、基金を計画的に積み上げていく努力が不可欠です。

## 2 行財政改革プランを早急に作り計画的に実行を

### ① 町は行財政改革プランの作成を

行革委員会は、五次までの答申で83項目の提案を行い、町に対してそのロードマップの作成と実行を求めました。改革事項は他にも沢山ありますから、答申項目を含めた財政健全化のための行財政改革プランを町で早急に作成することが重要です。

### ② 新たな委員会で検討・検証を

町長からの諮問事項に対する今回の答申は、行財政改革の第一歩にすぎません。答申事項の実施を継続的に評価・検証するとともに、町が策定する

行財政改革プランを検討・成文化するために、令和5年度には新たな行革委員会を早期に立ち上げる必要があります。

## 3 町長の決断とリーダーシップが重要

行政の運営には、町民の要望や意見に十分耳を傾けることは当然のことですが、同時に財政健全化には、上に掲げた課題の実行が不可欠であり、そのための町長の決断とリーダーシップが何よりも重要になります。

## 4 町の将来像を行政、議会、町民ぐるみで

行革委員会は、2年間の任期を終えますが、行財政改革は緒に付いたばかり。池田町の未来をつくるには、行政への住民の関心と積極的な働きかけが大事になります。行財政改革は、町民が安心して暮らせる町づくりの土台を据えるものであり、その先の将来像は住民総意で作らなければなりません。本委員会の協議や答申などの活動が、そのための礎となることを心から願うものです。